

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ラシク 川崎			
○保護者評価実施期間	2025年3月7日（月） ～ 2025年3月8日（火）			
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	10	（回答者数）	4
○従業者評価実施期間	2025年3月7日（月） ～ 2025年3月8日（火）			
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	開所間もないこともあり、経験豊かな職員と、ご利用者様（児童や保護者様）と一緒にこれからのラシク川崎の在り方をどのようにしたいのか、皆様が理想とする居場所を一緒に作りあげていけること。	ご利用者様（児童や保護者様）のご意見を意識的に取り入れられるようにしております。まだ万全とは言えない為、最善となるよう日々改善に努めていくようにしていきたい所存です。	親御様からあるご意見の中で、一番に多いのは「子どもが安心して過ごせる居場所がほしい」でした。その次に「手足の冷えがひどい為、マッサージしてほしい。」「可動域を維持してほしい、向上させたい為、リハビリしてほしい」でした。以上より、専門的支援職員の配置の充実を図っていきけるよう取り組んでいきます。PT・OTなどの専門的支援職員により個別支援の知見が広がり、全職員の共通理解・支援だけでなく、親御様へのサポートにも繋るため。放課後デイサービスを充実した支援に繋げていきたいです。
2		ご利用者様（児童や保護者様）のご意見を意識的に取り入れられるような心構えですが、まだ万全とは言えない為、最善となるよう日々改善に努めていくようにしていきたい所存です。	保護者面談の実施をしていきます。（保護者様が仕事などで多忙なことも想定し、オンライン面談なのかは要検討）その次に、保護者交流会をしていきたい所存ですが、親御様との相互理解をどのように進めていくかは、まずは職員一同で最善方法を見出せるよう検討していきます。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1			
2			
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年3月10日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4	2	児童 1 名に対し、職員 1 名での支援を心けている。	児童の状態や必要に応じて、安全面に配慮し児童 1 名に対し職員 1.5 名への支援が行えるようにしていく。専門的ケアの状況によっては看護師 2 名体制の場合もあり、児童の状況を見極め配置していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	2		開所して間もない為、厚生労働省のガイドラインや指導のもと参考に実践していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2		開所して間もないため、今後保護者会様へ意見などのアンケートを配布（今回のアンケート）もしくは保護者会（多忙な親御様もいるため可能か検討）を行いご意見をいただく機会を設けるなど検討要必要。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1		開所して間もないため、今後第三者による外部評価を実施していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	2		適切な支援プログラムを作成し、親御様へ提示できるよう努めていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	2		個々のニーズに合った課題を、アセスメントで把握できるよう適切なヒアリングが行われるよう改善する必要がある。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	2		サービス担当者会議だけでなく、毎日のミーティングで児童の支援や、課題について職員が意見を交わし共通相互理解・支援を行えるよう努める必要がある。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	2		個々のニーズに合った課題への支援とはまだ万全とはいかない為、計画に沿った支援を見直し調整が必要である。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2		児童の適応行動を職員が共通観察・相互理解ができているか、フォーマルなアセスメントシートを使用（個別が必要であれば作成）するよう改善していく。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	2		「放課後等デイサービスの提供すべき支援」に沿って必要な項目が適切に支援できているか、まずは毎日の支援で見える化する必要がある。見える化した支援の内容が適切かどうかを含め、日々のミーティングでも把握し修正が必要であれば改善策を考慮する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	児童指導員2名がチームとなって行っている。	現在児童指導員2名がチームで行なっているが、立案チームの人数を見直し、職員一人の負担がかからないよう配慮が必要。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	児童指導員2名がチームとなって行っている。	現在児童指導員2名がチームで行なっているが、立案チームの人数を見直し、職員一人の負担がかからないよう配慮が必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	2		未だ実施できていない為、今後実施していけるよう職員一同で話し合いが必要。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	2		未だ実施できていない為、今後実施していけるよう職員一同で話し合いが必要。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	4	2		未だ万全とは言えない、実施できていない為、今後実施していけるよう職員一同で話し合いが必要。児童一人ひとりの支援の際に、課題や目標に沿ったケアが適切であるか職員が意識化できるよう、支援終了後に職員誰もが参画できる（意見を交わせる）よう努めていく。職員一同責任をもった支援が行えるよう努めたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	2		日々の支援記録は職員が平等に行っているが、支援の検証や改善などの振り返りや気づき点を終礼で行えるようにしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	2		開所間もないため、今後実施していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	2		児童発達支援管理責任者の「4つの基本活動」について、支援に盛り込むよう理解把握が必要、また保護者様からのヒアリング方法を改善する必要がある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	2		ミーティングなどで児童への個別支援の方法や工夫について共通した支援をしていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	2		サービス担当者会議だけでなく、支援についてのミーティングで児童への個別支援が適切であるのか、改善に改善を重ね、その児童の特性や成長に見合った支援をしていく。そのためにも、職員も日々成長していけるよう、経験から学び、自身だったらどのような支援ができるのか、どうしたいかなど、志を高めて意見を交わせるよう努めていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2		未だ不十分であるため、関係機関と適切な風通しの良い連携が行えるよう努めていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	2		まだ不十分であるため、学校との適切な風通しの良い連携が行えるよう努めていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	4		まだ不十分であるため、各事業者との適切な風通しの良い連携が行えるよう努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	3		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		6		

携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		6		
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		6		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	2		開所して間もないため実施できていないが、今後取り入れていきたい所存。何を持って共通理解なのかを個別にまとめ提示する必要がある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3		現在、ご家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)を行える職員が若干のみのため、計画性を持って支援に取り入れていく。
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1		最善に努めていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	3		「児童や保護者様の意思の尊重、児童の最善の利益の優先考慮の観点」について、今が最善と思っても時と共に変化していくものと理解。モニタリングだけでなく、日々のコミュニケーションから再確認・認識し児童や保護者様にとって今がベストである支援に努めていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	2		開所して間もないため実施できていないが、今後定期的に、面談や必要な助言と支援を行っていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		6		保護者会や家族で交流する機会を設ける等の支援は今後行なっていきたい所存。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	2		保護者様からの相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応していけるよう、整備していく必要がある。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	1	ミーティングや個別に、個人情報の取り扱いの書類などは書庫に戻すことを定期的に声かけしている。	引き続き、定期的にミーティングや個別に、個人情報の取り扱いの書類などは書庫に戻すことを声かけする必要がある。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	2	保護者との関わりに関して配慮できている職員を教育担当としている。	配慮できている職員もおりますが、そうでない職員も見受けられるため、指導を行い改善を図っていく。
非 常	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		開所間もないため、まずは地域住民に教室のことを理解していただく働きかけが必要。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	行政の指導の下、各訓練に取り組んでいる。	訓練を行っているが万全ではないため、定期的の実施していく。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1	行政の指導の下、各訓練に取り組んでいる。	訓練を行っているが万全ではないため、定期的の実施していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
非 常	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			

時 等 の 対 応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	2		ヒヤリハットの報告は上がっているが再発防止に向けた方策をミーティングで取り組んで共有・再発防止に努めていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1		